

《2025年4月》

『あなたがたは、神に愛されている子どもです。』 エフェソの信徒への手紙 5章 1節

「神様の愛」。目には見えなくても、これに気づいている人に聞こえるメッセージがある、と感じています。

「あなたに出逢えて、とても嬉しい！あなたを愛するために私はここにいる。愛しています！」そんな言葉、めったに聞かないかもしれません。赤面するほどの感情表現にも思えます。

でも、小城ルーテルこども園の保育スタッフたちによる、新年度の歓迎メッセージと同じです。

「私たちは、あなたがこども園に来るのを待っていました。

あなたに出逢えて、本当にうれしい！あなたは、私たちの喜び！なのです。」

\*先日、熊本で、『ぎゅうっと』と題がつけられた詩に出会いました。

「産まんならよかった」一貴が自閉傾向のある軽度の知的障がいとわかったとき、悲しいことに、そんな思いが私の頭をよぎりました。本音でした。

そんなある日、夫の和弘が一貴を風呂に入れながら「お前は手がかかるんじゃないくて、育てがいのある子だよな。ぼくたちを選んで生まれてきたんだよな」と話しているのが聞こえてきました。涙が後から後から出てきました。

それから、もう泣くのはやめました。私たちを選んで生まれてきた一貴のために、そして、2人の娘たちのために。長女・一恵は、「一貴が頑張るから私も頑張れる」と、人一倍の頑張り屋に。

次女・愛は、「世の中厳しいんだから、障がいがあるからって甘やかしてばかりじゃダメ」と、私たち親を叱咤激励。一貴と本音のけんかをしながら一番の仲良しでいてくれます。 - - - (続く) - - -



私たち「小城幼稚園」は 1909 年に創設されました。出発は 1898 年、宣教師によって建てられた《神様の家》、小城ルーテル教会の祈りにさかのぼります。新しく園舎は新築されましたが、最初から保育場所は礼拝堂のお隣にありました。

今月は、写真を付けましたが、そこに広がる風景は、文字通り、「神様の家族」の暮らしであり、神様の子どもたちの様子でした。以来ずっと、こども園にやってくる幼子たちは「神様が愛されている子ども」のひとりであると見るまなざしに変化はありません。

キリスト教の精神を基盤にする幼児教育・保育所といわれる特徴です。「神様に愛されるため、あなたはこの世界に生まれてきた！」愛で包んでおられる天の神様のお心を仰ぎ、伝えよう保育者は心がけてきました。

幼子一人ひとりを、「神様が愛される大切な人」と理解する源泉は湧き続けています。(チャプレン 白川道生)

